

「医療情報部 (Medical Informatics&Digital Medicine)」 教授就任のご挨拶

2010年より今まで福岡大学病院消化器外科で仕事をさせていただき、2020年4月に医療情報部の診療部長に就任させていただきましたが、この度2023年4月より医療情報部 (Medical Informatics&Digital Medicine) の教授を拝命いたしました。

これからの医療の発展はデジタル化抜きでは成し遂げることが困難と考えられており、様々な分野でのAIの活用、IoTのユビキタス化を軸に診断・治療方針の決定・治療にいたる全てのプロセスがデジタル化の対象になっております。囲碁や将棋の世界では既にAIは人間を凌駕し、AIから学ぶことによって更なる発展のスタートに繋がっています。またChatGPTの衝撃的な登場により、誰もが簡単にAIを使える世の中になってしまいま

した。そういった中で、更なる医療の発展への思いを込めてMedical Informatics&Digital Medicineは誕生しました。

福岡大学病院では2024年1月より電子カルテシステムが新しくなり、患者さんがスマホのアプリで外来診察の状況を確認できるようになったり、緊急事態時でも医療ができるだけ継続できるようなBCP対策をしたり、医師のリモートワークを補助する機能や電子カルテ上でオンライン診療ができる機能などを新たに導入する予定です。AIに関しては、2022年11月に胸部X線検査やCT検査の読影補助として既に導入されておりますが、福岡大学発のAI診断を目指して研究開発に挑んでいきたいと思っております。

また、これからの医療は病院の外に広がり、日常生活の中で

医療が提供され、医療の主体が患者さん自身に変わっていくと言われています。その中心的役割を担うのがウェアラブルデバイスをはじめとするIoT機器や本人が自由にアクセスできるPersonal Health Record等のデジタルデバイス・デジタルヘルスです。我々もそれらの可能性を模索しつつ、新たな価値観を創出したいと考えています。

デジタル医療は発展途上で、現状では有効性・安全性・コスト・個人情報の問題など課題はたくさんありますが、もはや医療におけるAIの優位性はゆるぎないものになりつつあります。これらを利用して医療の質の向上を目指していきたいと思っておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



医療情報部 (M&D) 教授・診療部長

医師 吉田 陽一郎

よしだ よういちろう

福大病院 No.123

Fukuoka University
Hospital News2023
春号
SPRING

産婦人科

就任のご挨拶と診療科のご紹介

令和5年4月より福岡大学病院産婦人科の教授・診療部長に就任しましたので、ご挨拶と当科のご紹介をさせていただきます。私は平成15年に九州大学を卒業し、医師としての研鑽を積んで、平成27年から当科で診療に従事して参りました。現在は、合併症が少ない低侵襲手術として浸透してきたロボット手術を活用し、他の診療科と連携しながら高度な骨盤外科手術の提供と婦人科腫瘍の治療成績と安全性の向上を図っています。

ニュースでも報道されていますように少子化問題は深刻な状況に陥っており、産婦人科医療もこれまでと違う役割が求められてきています。そこで当科の取り組みとしては、当院はがん診療連携拠点病院に指定されていることもあり、妊娠するための機能温存を必要とする若いがん

患者の方への支援を重点的にを行い、質の高いがん医療を推進しています。また、複数の診療科の連携体制による総合周産期母子医療センターとしての機能を充実させながら、需要が高まっている無痛分娩も積極的に行っています。無痛分娩は体力消耗が少なく、若いときほど体力がない方、産後すぐに職場復帰を望む方、上のお子さんの世話もある方に向けた分娩方法であり、当院では麻酔科や小児科の先生方にもご協力いただいて安全な無痛分娩を可能にしています。一方、仕事と育児の両立は心身の負担が大きく、職場によっては妊娠・出産が必ずしも喜ばしいこととして受け止められない場合もあり、慢性的な疲労や抑うつの原因になることもあります。そこに核家族化などの家族関係の変化も加わっている現状では、

妊産婦メンタルヘルスケアが重要視されており、当科を含めて精神神経科、小児科、児童虐待防止チーム、行政が一体となって、産前産後の切れ目のない支援を心掛けています。さらに、女性の生活の質の維持・向上のために、生涯にわたり健康を包括的にサポートするトータルヘルスケアというものを強く意識して診療を行っています。そのため、外来で行う薬物療法、妊婦健診、小手術に最新の技術や医療機器を取り入れて、女性のホルモン環境に配慮しながら様々な症状や病気に寄り添い、気兼ねなくご相談いただけるよう最善を尽くしています。

当科は、福岡大学病院の基本理念である「あたたかい医療」を中心に社会のニーズに応えられる患者ファーストの医療を目指していますので、あたたかいご支援を賜りますよう今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



写真：産婦人科スタッフ

前列左より 野口幸子、伊東智宏、倉員正光(准教授、医局長)、
四元房典(教授、診療部長)、宮田康平(准教授)、讃井純子
後列左より 清島千尋(外来医長)、平川豊文、漆山大知、吉川賢一(婦人科病棟医長)、重川浩一郎
列外左より 1段目：井嶋大介(産科病棟医長)、倉員真理子、木村いぶき、石田倅子、石田智大
2段目：平野智佳、田中一孝、永田浩士郎



産婦人科教授・診療部長

医師 四元 房典

よつもと ふさのり

Open! 当院では、
各種SNSを
開設しています!

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwMO3PwlaDYNNvXTXVUocA>



Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>



twitter
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>

instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号
TEL (092) 801-1011 代 URL: <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>

子どものこころ診療センター

福岡大学病院「子どものこころ診療センター」
開設のお知らせ

子どもの心の問題に対する社会的関心は高く、教育・福祉・行政・かかりつけ医など、さまざまな分野から、子どもの心の診療に対する体制構築が求められています。このたび、福岡大学病院は「**子どものこころ診療センター**」を開設しましたので皆様にご報告申し上げます。

子どもの心の問題は、抑うつや不安などいわゆる精神症状だけではなく、慢性の頭痛・腹痛、めまい、朝起きられない、体が動かないなど、身体症状に置き

換えて表現されることがしばしばあります。当センターでは、摂食障害、起立性調節障害、不登校、繰り返す痛み(頭痛・腹痛)、子ども虐待、習癖(チック等)などに対して、医師、公認心理師／臨床心理士、看護師、ソーシャルワーカー、栄養士、保育士、チャイルドライフスペシャリスト、理学／作業療法士など多職種による外来治療／入院治療を提供しています。人口160万人都市である福岡市において、子どもの心の問題に対応できる小児科入

院病棟施設は少なく、地域医療との連携が期待されています。

2021年に閣議決定された成育基本法の基本的方針の中に、社会が抱える子どものメンタルヘルス疾患への診療体制および診療に係る人材育成を促し、国民の健康増進に貢献することが医療機関の使命として記されています。福岡大学病院はその使命を果たすために、子どもたちが心身ともに健やかに成長し発達していくことを支援していきます。

診療対象者

1 成育過程※にある子ども

※出生に始まり、新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て、おとなになるまでの一連の過程

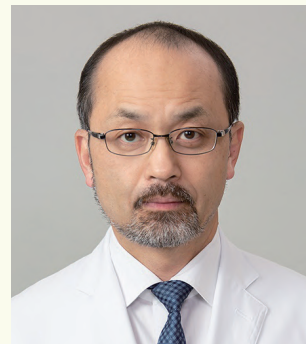
2 成育過程における心理・社会的要因によって、こころの不調を認める子ども

ご予約方法

完全予約制です。かかりつけ医療機関から**地域医療連携センター宛(専用FAX：092-862-8622)**に予約申し込みをお願いします。



**福岡大学病院は、子どものこころ専門機構による
専門医研修施設の認定を受けています。**



子どものこころ診療センター長
医師 **永光 信一郎**
ながみつ しんいちろう

睡眠センター

福岡大学病院「睡眠センター」設立について

睡眠は、全人類に必要な不可欠なものであり、ほぼ毎日十分な時間を割かないといけません。適切な睡眠時間は年齢により異なりますが、7～8時間取らないと死亡率が高くなることが分かっています。現在日本は、OECD(経済協力開発機構)加盟国の中でも睡眠時間が最も少なく、睡眠不足大国です。睡眠不足は睡眠負債となり、高血圧、糖尿病、認知症やうつ病、日中のパフォーマンス低下につながると言われています。しかしながら、重要性が高いにも関わらず、九州には睡眠医療に取り組んでいる大学病院が少ないのが現状です。

福岡大学病院の基本理念「あたたかい医療」に根ざした睡眠医療の指導的病院として、岩崎病院長、藤田副病院長の尽力により、2022年8月1日に睡眠センターが設立されました。福岡大学病院睡眠センターは、呼吸器内科、循環器内科、脳神

経内科、内分泌・糖尿病内科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、精神神経科など多くの診療科が関与します。当センターでは、不眠症、ナルコレプシーを含めた過眠症、睡眠時無呼吸症候群(SAS)、むずむず脚症候群、睡眠リズム障害など睡眠障害分類に沿った診療に当たります。特にSAS患者は推定2200万人以上とも言われ、今後さらに増加することが予想されています。SASは高血圧、糖尿病、心不全、心房細動などの不整脈、心筋梗塞、脳卒中、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、うつ病、認知症、夜間頻尿、脂肪肝、がんに関与することがわかってきています。そのため、SAS患者の早期治療は極めて重要です。SASに重点をおいて、診療を行って参ります。

また、福岡大学病院ではSAS診断に必要な睡眠ポリグラフ検査以外にも、2018年から

MSLT(多睡眠潜時)検査を開始しており、ナルコレプシー、特発性過眠症、Kline Levin症候群などの診断・治療もしております。



睡眠センター開設にあたり毎月のカンファランスを始動し、治療方針の決定・確認により、患者さんに質の高い睡眠医療の提供に努めております。より良い睡眠は健康寿命の延伸に繋がります。皆様のいびき、日中の眠気、不眠など睡眠についてお困りの事がございましたら、福岡大学病院睡眠センター(睡眠時無呼吸外来)を受診されて下さい。近隣の先生方と病診連携を行いながら睡眠医療を行っていく所存です。



睡眠センター長
医師 **吉村 力**
よしむら ちから